普及活動情勢報告（令和４年７月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

有望品種を探して　～トルコギキョウ等展示会視察～

今後の栽培品種を検討中

JA 高知県れいほく花き部会は、７月７日、８日に長野県、山梨県で開催された種苗会社の展示会への視察を実施し、生産者２名が参加しました。

当日は５カ所の種苗会社を訪れ、トルコギキョウやその他草花の、主要品種や試験品種の展示を見学しました。

普及所は、嶺北地域での栽培のしやすさ、市場での需要の高さ、樹勢や花型などの生育特性についての情報収集を支援しました。

生産者からは、「新しい情報を積極的に取り入れ、品質の良い花を届けることで産地の発展に繋げたい」との声が聞かれました。

今後も普及所は、地域の花の生産拡大に向けて、JA と連携して情報収集などの取組を支援していきます。

ミニトマト目慣らし会～品質向上を目指して～

出荷規格を確認

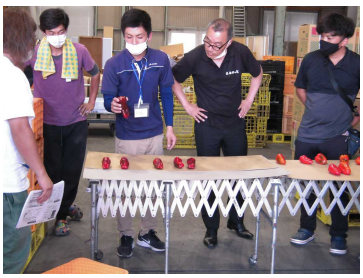
７月８日、JA 高知県れいほく園芸部ミニトマト部会は目慣らし会を開催し、部会員 10 名、市場関係者１名、種苗業者１名、JA１名、普及所２名が参加しました。

部会員は、出荷されたミニトマトの色付きなどの形状を見て、市場関係者の意見を聞きながら、出荷規格を確認し合いました。

普及所は、病害虫・高温対策や、現在行っている着果制限試験を説明しました。部会員からは、草勢を弱らせない管理について質問が出され、栽培技術向上に向けた高い意欲が感じられました。

今後も普及所は、ミニトマトの高品質・安定生産に向けて栽培管理技術の向上を支援していきます。

新たな取り組みで病害対策を　～カラーピーマン部会目慣らし会・現地検討会～



活発な質疑応答

７月 13 日､JA 高知県れいほく園芸部カラーピーマン部会は現地検討会を開催し、部会員 10 名が参加しました。

JA からは、規格表を基に等階級分けをして出荷規格の目慣らしを行いました。また、市場での過熟を防ぐため夏期には７分程度の着色で収穫するよう呼びかけました。

普及所からは、湿度管理による黒枯病対策や曇雨天時の栽培管理について説明しました。

参加者からは、「湿度を一時的に下げれば斑点病対策にもなるか？」、「黒枯病に効果的な農薬は?」など多くの質問が出され、活発に意見交換が行われました。

今後も普及所は、生産者の収量・所得の増加につながるよう、JA と連携して栽培管理技術の向上を支援します。

花の栽培を見学！　～大豊学園花育授業～

熱心に話を聞く生徒たち

７月 14 日、JA 高知県れいほく花き部会は、土佐町のトルコギキョウ栽培ハウスで大豊学園の９年生４名を対象に、花育の出前授業を開催しました。

花き部会は、これまで小学校等でフラワーアレンジメント実習による出前授業を行ってきましたが、今年度は生徒からの強い要望により、嶺北の花栽培の現場で学ぶ授業となりました。普及所は、JA とともに事前準備や当日の授業の進行を支援しました。

園主である部会長からは、栽培から出荷までの流れや作業の大変さなど、花きの栽培にまつわる様々な説明がありました。

生徒からは、「花の魅力や、苦労・楽しさについて知ることができた」という声が出て、ますます花への関心が高まった様子でした。

今後も普及所は、花育や花の消費拡大に向けた取組を支援していきます。

今年の出来は？～玉緑茶審査会～

味を審査中

７月 15 日、大川村玉緑茶審査会が関係機関の出席のもと、開催されました。普及所は茶業試験場とともに審査を支援しました。

出品された 10 点について、茶業試験場の担当者が外観、香り、水色、味を採点し、順位が決まりました。今年は天候の影響か、釜の温度が高めだったと思われるものや、葉が大きめのものも見受けられましたが、上位のものは高品質なお茶に仕上がっていました。

この審査会には毎年、大川小中学校から出品があり、次代への技術継承にもつながっています。

今後も普及所は、特産品の維持・発展につながるよう、支援をつづけていきます。